

令和6年度 魚津市総合教育会議 議事録

令和6年11月5日（火）

14:30～15:50

魚津市教育委員会会議室

【出席者】市 長 村椿 晃
教育長 山瀬 敬
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治
事務局 企画部長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局参事、教育総務課長
生涯学習・スポーツ課長、教育総務課長代理、学校教育係長
企画政策課長、企画係長

【議事録】

事務局 (企画政策課長)	予定の時間となりましたので、ただ今から令和6年度魚津市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。
市長	<p>委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、ご参集いただきありがとうございます。日頃より本市教育行政にお力添えを頂いておりますこと心より感謝いたします。</p> <p>10月1日付けで教育委員に再任されました松本委員におかれましては、今までの経験と高い見識を活かしていただきまして、更なるご協力を賜ればと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いします。</p> <p>本日のテーマは、ふるさとへの誇りと愛着を育み、新しい時代を切り開く人づくり、ということになっていますが、本市は現在、ワーケーションを含めた他との交流を展開していますが、その時に、まずここに住む人自身が、この地域のことを知り、愛して、情熱を持たないと、他の人は関係を持ってくれません。持続しません。</p> <p>色々なところと色々な関係性を持つうえでも、そこに住む者が自分たちの土地の良さ悪さ弱点も含めてそれをしっかりと頭書き込み、他との関係を構築する、こういった力が重要だというふうに思っています。そういった意味で、ふるさとを含めて社会との繋がりをどうつけていくかといううえで、非常に重要なテーマだと思っています。</p> <p>以前から市はふるさと教育を展開しておりますが、今日改めてそういった点も含め、どう子ども達にアプローチをするかということを含めて、忌憚のない意見をいただきながら、これからの取組に活かして行ければと思っています。人づくりに繋がることですので、よろしく申し上げます。</p>
事務局 (企画政策課長)	ありがとうございました。それでは議事に入りますが、ここからの進行は市長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
市長	それでは、事務局から、議事の(1)「ふるさとへの誇りと愛着を育み、新しい時代を切り拓くひとづくり」について、説明をお願いいたします。

<p>教育委員会事務局長参事</p>	<p>(資料説明)</p> <p>○魚津市ふるさとキャリア教育の実際</p> <p>1 ふるさとキャリア教育の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚津市ふるさとキャリア教育スタンダードプラン ・魚津市ふるさとキャリア教育素材一覧 <p>2 現在の取組における課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が主体性を持ち、ふるさとキャリア教育を推進することの重要性 ・「産業」や「人」との関わりを生み出す工夫 <p>3 意見交換のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①魚津の産業や人との連携をさらに深めるための方策について ②市や地域の取組と結びつきを強めた「ふるさとキャリア教育」のあり方について
<p>市長</p>	<p>わかりました。ありがとう。</p> <p>説明をいただいたところで、課題として産業の関わりが薄いという問題意識を持っているが、この背景、どうしてそうなっているのかということがあれば、少し説明を頂きたい。</p>
<p>教委参事</p>	<p>まず産業分野に関して言えば、農業についての体験があるが、水産業については見学体験できる機会が少ないということで、産業の関わりが薄いという要因の一つとなっている。また、自然や歴史文化、産業について、体験する・学ぶ、を経験するために関わってもらう人との関係性がないことも課題となっている。</p>
<p>市長</p>	<p>各分野において、関わってもらう人とのコネクションや機会を設定することがなかなか難しいと、そういう意味ですね。</p> <p>事務局の方から、現在のふるさとキャリア教育スタンダードプランに基づく具体的な取組内容、そして取組の課題認識をご提示いただいた。まずこの段階で各委員の皆様より確認なりご質問を発言いただきたい。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>今の言われた話の中で、人と産業の結びつきという話があると思うが、人と産業の結びつきはすごく難しい。ある人が魚津の産業に対しどう影響しているのかということ、有名な人達の中で地域産業に影響を与えたって人はほぼいないのではないかな。</p> <p>地域とか地政学といった視点で産業を見ると、この地域やこの場所だからこういう産業が発達したのだという物の見方に変えていけば、魚津の産業ってこんなものがあるのだねという。例えば果物だと、魚津市は梨の北限、りんごの南限だと言われている。地政学的とか気候の関係とかの考え方を入れたらアプローチしやすいのではないかな。そういう考え方を子供たちの教育の中に入れていくことが大事なのではないかな。</p>
<p>松本委員</p>	<p>今の話について。子供は本当に体験によって、ものすごく色々なことに興味を感じたり意欲を持ったり、自分の良いところ悪いところを考えて、子どもらしい将来や夢を語り始める。</p>

それプラス子供の発達段階というのも、大きな要素だと思っており、現在の取組の表を見ても、やはり小学校の段階で地域の色々なところへ出かけて行き、リンゴを摘ませてもらったり梨を摘ませてもらったり、そのような体験はものすごく大事だと思う。

課題として、産業分野との関わりが薄いということを言われたが、中学校に行った段階で14歳の挑戦など(があり)、そういった社会との関わり、色々な会社との関わりが強くなる。中学校の段階でそれをやるというところに、ものすごく意味がある。中学生になると自分の将来の生き方について小学校とは違った視点で、どう自分らしく生きていくかということを考える段階なので、小学校の頃に余りにも無理やり押し込める必要もないのではないかと考える。ゆったりと地域の特性の産業をじっくりと体験するということが小学生にとってはとても大事なのではないかと。

また小中9年間とはまた違うが、高校になれば、より直接関わっていくところまで行くので考え方も違う。スタンダードプランはしっかり考えて作ってあるし、何でもかんでも詰め込めばいいというものではないと考える。発達段階を考え、子供たちに色々な体験をさせていくということが大事。もちろん、人との関わりという点についてもとても大事だと思う。

市長

今の段階で他によろしいですか。

片山委員

この意見交換のテーマが「ふるさとへの愛着と誇りを育み、新しい時代を切り開く人づくり」となっている。現在のカリキュラムがそれに繋がるのかというところで、「魚津に住んでいたら当たり前実施される社会見学の1つをやっている」という、それに対しこんなに深いテーマがあるということ子供達がわかるようにするには何が必要かということを考えながら見ていた。地域に対する愛着と誇りという深いテーマをどうやったら感じ取れるか。愛着とは何か、誇りとは何か、そういうところから伝える必要がある。そして人それぞれ、それが違ったとしたら、自分でそれを見つけていく作業の部分で中学校になったら組み込めないかとか、ふるさとへの愛着とはどういうことを言うのか、私自身も思う部分がある。

本日の資料に「新しい時代を切り開く」と書いてあるが、それをするには例えばミラージュランドの新しい遊具をみんなで考えると、それを形にするとか。とにかく自分達が何かをやりました、貢献しました、そういうものを増やしていくことが、ふるさとへの愛着に、もしかしたら繋がり、そういうものづくりみたいところから、新しい時代は自分のどんな意見でも、やろうと思えばできるんだというような、そういう体験に繋がっていけば良いと思う。

市長

ありがとうございます。

山浦委員

私は2年前に秋田県の大館市に行った。大館市のキャリア教育がすごく印象が強く、中学生が作ってくれたドレッシングを一本いただいたが、中学生が、生産して販売までをやっている。それが将来に繋がるのではないかと考えている。全員が体験するカリキュラムとなっている教育課程内のプログラムとなっている。

本来は中2で1週間の14歳の挑戦を終えた後に、「もっとやりたい」という子が出て

	<p>きてもいいのではないかと考える。そして、それを受け入れてくれる企業なり生産者があってもいいのではないかと考える。カリキュラム上に出てこなくても、土日などで繋がって、生産まで手伝ったら、今度は新しい何かを生み出して、開発まで携わって販売まで、お金を儲けるところまでやってみたいという中学生がいてもいいのではないかと考える。</p> <p>現在新川高校さんなどで非常に工夫しながら収益を上げるところまで踏み込んでおられるが、中学校でその入口みたいのところまで、全員が携わらなくても、そういう広がりまで求めてもいいのではないかと思う。実際聞いてみたいのは14歳の挑戦の後、そこへ関わっている中学生がいるのかということを知りたい。</p>
市長	<p>はい。まず一通り皆様から課題設定をとらえたうえでの感想をいただいた。</p> <p>本日協議事項として魚津の産業や人との連携をさらに深めるための方法、もう1つその地域との結びつきをどう深めていくかというテーマが上がっている。おそらく、委員の皆様がおっしゃることはいずれもここに関係しているが、そうするとどうやってそこにアプローチしていくかということになる。全員を対象にこういったようなことをどうできるのかというような話があり、難しい部分も正直あるのかなと想像はするが、ただ可能性は排除しないで議論していきたいと思っている。</p> <p>そこで、テーマ「①魚津の産業や人との連携をさらに深める方策について」考えられる方策、アプローチ方法について、何かご意見いただければと思うがどうか。</p>
伊東委員	<p>ふるさとキャリア教育スタンダードプランについて、何をするか決めたのは教育委員会と学校の先生ということだが、そうではなく、ただ見学に行くだけではなく、例えば、中学生が小学生のためにプログラムを作るといったような方法にしてはどうかと思う。</p> <p>中学生が授業として調べてプログラムとして作り、小学生を連れて行きやってみようというように、上の学年が下の学年を何とかするという、先日、小中一貫校を視察させてもらった際の考え方と全く同じだと思うが、さらに広げれば「魚津市に遠足に来ればこういうものが見られますよ」というプログラムを中学生に本当に考えさせるということをやっていけば、愛情が生まれてくるだろうし、自分達で調べたことによっていろんなこともできる場になるだろうし、もっともっと私たちが気づかないことについて、子供達が調べたり近所で聞いたりする。</p> <p>ただ見るだけではなく調べさせる。例えば産業や人など1つの分野別に子供達に好きなテーマを選ばせてやらせてみたらどうか。</p>
市長	<p>例えば今伊東委員がおっしゃったような、上の学年から下の学年をつないだような取組の状況はどの様になっているか。</p>
教育委員会事務局参事	<p>中学生が小学生にという例はないが、学校の特色として道下小学校では縦割り遠足を実施しており、6年生が計画を立てて低学年に説明をして実施している。子供達も思い出に残ると聞いている。良いヒントだと認識している。</p>
伊東委員	<p>中学生に市内外から来る小学校4年生の遠足のプログラムを考えさせてはどうか。ま</p>

<p>市長</p>	<p>ちの何をどう見せたいか、小学校4年生が何を習っているかも踏まえて考えたものを発表したら面白いのではないか。</p> <p>また、教育とは別の話だが魚津市内を半日ずつ観光するツアーがあっても良いと思うが、そういったことも子どもに考えさせてみれば面白いのではないか。</p> <p>知る、体験するというのではなく、自ら作るということですね。</p> <p>実際に学校現場で教育をしている立場からするとどう考えるか。</p>
<p>山浦委員</p>	<p>小学生と保育園の繋がりはやっている。小学校1年生の生活科で、今度入学してくる保育園児に、学校を紹介し、学校のよさを伝える。幼保との繋がりには別の目的もあるが、それも繋がりとして1つ。</p>
<p>教育長</p>	<p>先ほどの山浦委員のご意見にもあったが、自身も秋田県の大館市の取組には衝撃を受けた。</p> <p>大館市は6万8000人の都市。小学校は17校。中学校は5校。消滅可能都市に指定されているが、このままでは人口が減り活力がなくなっていくということで、10年後に北東北の中核都市になることを目指して、ふるさとキャリア教育を始められた。10年前からそういう取り組みをしておられ、魚津市も同じであるべきではないかと思った。</p> <p>現在のふるさとキャリア教育は、子供たちにとって与えられた学習でしかない部分はあるのかもしれない。より体験的な学習、自分たちがやることで手応えを少しずつでも積み重ねていくことにより、ふるさとの誇りを知り、新しい自分のあり方を考えていくことが大切。</p> <p>また体験や自分自身で感じることを支えるのは地域の人であり、コミュニティスクールを導入したことも、人との関わりをいかに生み出していくかという狙いがある。</p> <p>それぞれの学校に合った活動を少しずつでも考えていけないかと思う。子供達自身が考えていく、学校の特色が出るような取組ができないかと考えている。</p> <p>遠足のプログラム作りなどはすごく面白い発想。色々なところに紹介されれば子供達はすごく嬉しいだろう。自分達のやったことがひょっとしたら他の市町村の子供達にもプラスになる。ボランティアもあってもいいだろう。子供自身が主体的に取り組めるような応援が出来たらよい。</p> <p>だが、本来が一番大事なことは1日1日の授業。学校の授業が何よりも大事。小さな積み重ねを9年間しっかり積み重なっていくことが、結局はいい大人、市民を作っていく。</p>
<p>松本委員</p>	<p>新しい時代を切り開く人とはどんな人を考えているのか、具体的にイメージをしっかり持たないと教育はできない。具体像をしっかりさせて小学生の小さいときから中学生・高校生、どういうことを学ばせていけばいいのかということになる。</p> <p>20年後の持続的な学校、人づくりを考えたときに、もう20年経ったら基礎・基本的なことはみんなAIがやってくれるのではないか。そのような時代を生き抜く人は何が大事かという個性、その人の良さを生かしたもの。</p> <p>前までは学校でもスポーツ界でも出来ないことを一生懸命出来るようにやっていた。</p>

	<p>もちろんそれは大事だが、今特にスポーツ界では、それも大事にしながら、出来ることをもっと伸ばす方に視点が動いている。学校でも基礎・基本を大事にしながら、その子の持つ可能性や良いところをどう伸ばすかというところに大分力を入れるようになってきている。その辺りを考えていく必要がある。1つのことに、これだけは絶対に負けないという子供達、そういうのは非常にいろんな面において自信になる。</p>
市長	<p>大館市の取組で参考にできるとすれば、どのような取組か。</p>
山浦委員	<p>教育長が先頭に立ち9年間やって行かれたそうだが、地域の力を借りて、地域に残って産業につなげていくような一貫した取組。小学校のとき基礎的なところを身に着けると中学校になってもその続きで、6年間の積み重ねで、誰かから言われなくても新しいことを考えていくようになっている。</p>
市長	<p>産業界の方はどの様な関わりするのか。</p>
山浦委員	<p>事業としてではなく、土日に月に何回か子供達が来て、収穫したり、作ったり、お祭りなどで販売したり。</p>
教育長	<p>百花繚乱作戦と名付けて色々な地域産業に関する取組があった。 通常ならば育てて収穫するまでのところ、加工して売るところまでの流れをやっていた。もう一つの特色として、子供ハローワークとして働く体験をできるいろんな仕組みがある。お祭りの手伝いやイベントに参加したり、色々な企業から、こういう仕事あるから夏休みに手伝ってくれないかというような取組もあった。子供達が自分で働くことを通して地域の魅力とか良さを発見するという特色があった。</p>
伊東委員	<p>学校の先生の負担にならないようにすることが大事。先生の負担になると進まない。 また、新しい時代を切り開く人づくりという時に、ちょうど先週インターナショナルバカロレアを見学してきた。プログラムの作り方として、子供達の課題発見力をすごく大事にしていた。課題発見して自ら解決できる力はこれから先求められていく力。 また、よりよい社会を築くことに貢献する人づくりも重要。子供達には課題発見をして解決していく中で必ず社会にどう役に立つかということテーマの中に入れて考えさせる。そういったことをキャリア教育の中で入れていくべき。</p>
市長	<p>それは通常科目の授業がそうになっているのか。</p>
伊東委員	<p>全部の授業がそういう考え方でいっている。</p>
松本委員	<p>今年からコミュニティスクール導入ということで、運営協議会の委員には企業の方とか保護者とか、いろんな方が入っていると思うので、その方々からこういうこと学校で学ばせて欲しいといった意見がもらえればコミュニティスクールの機能が果たせてく</p>

	<p>るのではないか。コミュニティスクールの機能を十分活かすように「野菜の作り方を直接話しますよ」とか「会社ではこういう人材を求めています」とかそういう話がどんどん出てくれば、子供たちと地域との結びつきが強くなってくる。</p>
市長	<p>コミュニティスクールの取組について資料には、社会課題にどう取り組んでいけるかという視点で記載してあるが、今まさにこのような視点での話し合いが始められているという状況なのだろう。</p>
教育長	<p>コミュニティスクールの取組はすべての学校でスタートしている。 まだ本当に始まったばかりだが、それぞれの学校の特色が非常に現れるようなご意見を頂いていると聞いているので、今後非常に楽しい取組になると思っている。</p>
市長	<p>やはり今までの話のとおり、実施していくうえでは企業や地域、学校以外の方々の関わりがないと展開が難しいと思う。 ですから、今の取組に対してコミュニティスクールにいかに発言を求めていくか、あくまでももちろん理解して協力してもらわないとできないのではというところがある。</p>
伊東委員	<p>例えば保護者が月に1回子ども達の前で講演するというだけでも良い。キャリア教育とは、企業を紹介することではなく、仕事を教えること。企業名を伝えるのではなく、こんな仕事で社会にどう求められているかということ伝えること。</p>
市長	<p>総合教育会議でご提案の一つとして今後に向けた検討材料とさせていただきます。また、先ほどの中学生と小学生を結びつけて、自分達の考えで行動できるような取組を考えられないかと思う。</p>
片山委員	<p>子供達は能力に満ち溢れていて何でも自分で乗り越えられる、年齢の差はあれど、その年代なりに課題の解決していく力はあると考えている。 現在魚津市には課題がたくさんある。子供達が考えた提案を大人が絶対ノーと言わず、ブラッシュアップする手伝いはするけども、本質は全部子供達に考えさせる。1つのものを作り上げることがどれだけ大変かという経験をさせる。魚津市のたくさんの地域資源の中で、魚津ってこんなまちだと誇り持って言えるようにするには、どれを選んでどれをどうやるかということも子供達に考えさせるということが良い。</p>
山浦委員	<p>道下小学校の縦割り遠足は高学年がお店の予約やルート作成など全部やっている。教員の補助はつくが、予算管理まで全てやっている。</p>
伊東委員	<p>子供達に何が課題かということ考えさせて、問題解決するために取り組み、それが魚津市の役に立つ。予算交渉まで、教育長とか市長に対し子供達がやるくらいまでやってみたらよい。</p>
市長	<p>ぜひそのような視点で、何か子供が考えアクションしてそれが実現できるような取組みを考えていく。子供自治ですね。ありがとうございます。</p>

それでは、今日の総合教育会議の意見交換は終了したいと思う。皆様には、熱心にご発言いただいた。感謝いたします。

これで事務局の方にお返しします。

皆様どうもありがとうございました。

それではこれで本日の会議を終わります。皆さんもどうぞ疲れ様でした。どうもありがとうございます。

15時50分終了